

寄贈マーク、9年間で2000万点→200校以上

あおいニッセイ同和損保、被災地の学校などに贈呈

協賛会社のあおいニッセイ同和損害保険（ベルマーク番号92）は、地域貢献活動として2011年から全社を挙げてベルマークを集め、災害被災地の学校を中心に寄贈しています。昨年度は207万点を集め、9年間の累計点数は2000万点を超えました。

寄贈した学校は、のべ200校以上。東日本大震災、熊本地震、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震、西日本豪雨、昨秋の台風などで被災した学校が中心です。



今年度は21校にベルマークを贈りました。宮城県丸森町の町立丸森小学校（菊地禎広校長、児童171人）では9月に贈呈式があり、佐々木祐子仙台支店長から10万余点の目録などが贈られました。丸森町は昨年10月の台風19号による大雨で河川が氾濫するなどの被害が出、校舎の一部が浸水したほか、体育館は2カ月以上も避難所として使われました。児童の家も多くが被災したそうです。

菊地校長によると、同校は被災校であるにもかかわらず、今年7月の熊本豪雨に際して、4～6年生が自発的に被災地への支援活動をしたと言い出したそうです。熊本県球磨村の2つの小学校へ贈るため、寄せ書きで折り鶴や旗などを作ったり、募金活動を行ったりしました。菊地校長は支援に感謝するとともに、こうした子どもたちの様子に触れ「できることは何か、自分たちで考えてくれたことを嬉しく思います」と話しました。

昨年の台風で災害救助法が適用された東京都豊島区の城西大学附属城西中学・高等学校（斉藤栄校長、生徒1188人）も寄贈校のひとつ。PTAを中心にベルマーク運動をしていますが、コロナ禍の今年度は密を避けるため、活動頻度を減らしているそうです。斉藤校長は「寄贈はありがたいです。マークは校庭に設置する予定の時計の



④丸森小での寄贈の様子。一番左があおいニッセイ同和損害保険の佐々木祐子仙台支店長。左から3番目が菊地禎広校長

⑤⑥左から、サステナビリティ推進室の有村千尋さん、現広報室の寺岡真実さん ⑥⑦サステナビリティ推進室に届いたベルマークの一部

購入代の一部に役立てたいです」と話します。



あおいニッセイ同和損保で、寄贈マークの呼びかけや取りまとめを担当しているのは、広報部サステナビリティ推進室。各職場に回収箱を置くほか、代理店や取引先などにも取り組みの輪を広げ、10月現在で全国約5600の企業・団体が「ベルマークサポーター」として登録されています。ホームページで活動を知った人からも「被災地の子どもに」とマークが寄せられます。

寄贈先は被災地域の支店などが中心になって決めます。直接、地元の学校に贈る場合もありますが、大部分のマークは推進室に集約されます。昨年度収集分までは、

社員ボランティアが協力して仕分け・集計し、点数を確定して翌年度に寄贈していました。昨年度は約300人がボランティアに参加。「支援につながって良かった」と感想を話す社員もいたそうです。寄贈の結果や学校からのお礼の言葉は、社内報で紹介しています。

10月中旬まで推進室でベルマーク担当だった寺岡真実さん(現・同部広報室)は「損害保険会社として、自然災害やコロナの影響で思うように活動できない子どもたちに、少しでも笑顔をお届けできれば」と話します。後任の有村千尋さんは「ベルマークには本当に色々な方が関わっている。私も皆様の思いを無駄にしないよう一生懸命取り組みたいです」と抱負を語りました。

北から南まで、キリンビバレッジのベルマーク活動

北海道地震の復興支援 早来中に再び寄贈

一昨年の北海道地震で被害を受け、プレハブ仮校舎での授業が続いている安平町立早来中学校(木村義人校長、102人)に、昨年に続いて北海道のキリングループで集めたベルマークが贈られました。

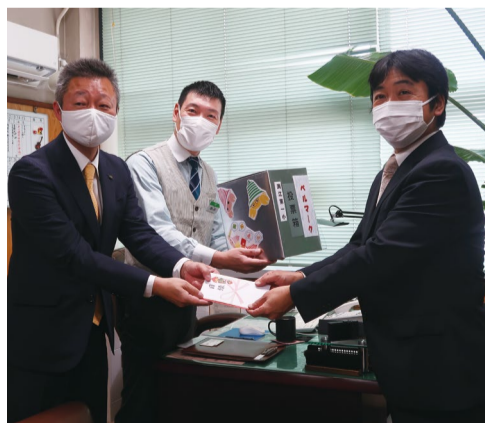
協賛会社キリンビバレッジ(ベルマーク番号54)の商品を北海道で販売している北海道キリンビバレッジ(坂謙一郎社長)の渡辺昌彦流通本部本部長から9月29日、入村(にゅうむら)貴行教頭に1万940点の目録が贈られました。入村教頭からは渡辺本部長に感謝状が渡されました。



同校の新校舎は2022年秋～冬ごろ完成予定と、まだ先ですが、子どもたちは前向きで「支援のおかげでモノがそろってきて、ありがたい」などと話しているそうです。

サミット保木間店と協力 渚江第一小に寄贈

スーパー大手サミットのサミットストア保木間店(東京都足立区、星野圭司店長)は、キリンビバレッジの協力を得て、地域貢献活動として集めたベルマーク1万8556点を、近くの足立区立渚江第一小学校(大森千里校長、児童573人)に寄贈しました。10月13日の贈呈式で、星野店長とキリンビバレッジの石川裕之・首都圏流通支社長が、大森校長に目録を贈りました。



保木間店はコロナ禍で自粛中の試食コーナーを「ベルマークPRコーナー」に改装し、マークを集めました。今後も収集活動を続けるそうです。渚江第一小はベルマークを担うPTAがコロナ禍で活動できない状況だったため、大森校長は「大変ありがたいです」と感謝していました。

ダイレックスと共同で 九州地区の学校を応援

九州を中心に約300店舗のディスカウントストアをチェーン展開しているダイレックス(本社・佐賀市)は、キリンビバレッジと共同で「家族の“おうち時間”応援キャンペーン」と題し、ベルマークの収集に取り組みます。期間は10月23日(金)～11月30日(月)。ベルマーク32枚(A)、20枚(B)、3枚(C)の3コースがあり、店頭での応募ハガキなどにマークを貼って送ると、それぞれ抽選で家電製品などが当たります。



対象商品はキリンビバレッジの生茶、生茶デカフェ、小岩井純果汁シリーズ、キリンレモン、ラブズスポーツ555ml。締め切りは12月2日(水)、消印有効。詳細については財団HPの「協賛・協力会社」>「協賛会社」>「協賛会社トピックス」やキリンHP「キャンペーン」の記事をご参照ください。

ウエルシアグループと 第3弾のキャンペーン

全国にドラッグストアをチェーン展開しているウエルシアグループとキリンビバレッジは、11～12月に「ベルマークを集めて日本全国応援キャンペーン」を実施します。昨夏と今春に続く第3弾キャンペーンで、抽選でおいしいお肉や名産品が当たります。集まったマークは、へき地校や災害被災校などへの支援に使われます。



全国のウエルシアグループ店舗(ウエルシア、ハックドラッグ、ダックス、ハッピー・ドラッグ、マルエドラッグ、金光薬品、よどやドラッグ)でキリンビバレッジのベルマーク商品を購入し、店に置いてある応募はがきか官製はがきに、ベルマークを4枚貼って応募します。過去のキャンペーンと違い「4点」ではなく「4枚」なのでご注意ください。詳細は財団HPの記事をご覧ください。